

【事業概要】

海洋保護区によるサンゴ礁域の持続的な漁業推進事業 (沖縄振興特別推進交付金対象事業)

秋田雄一*, 須藤裕介, 海老沢明彦

本事業では、サンゴ礁域の水産資源の回復及び持続的利用を主目的とした海洋保護区を推進するために、保護区の効果調査、持続的運営体制の構築、新規保護区の検討を実施し、沖縄県の持続的な漁業を推進する。

今年度および次年度は、現在沖縄本島北部を中心に発動されているスジアラおよびシロクラベラの漁獲体長制限に関する沖縄海区漁業調整委員会指示の適用範囲を遊漁者まで拡大することについて検討するため、遊漁によるスジアラの採捕実態を調査することとした。

材料及び方法

(1) 市場での漁獲物調査

資源管理上の基礎的な情報を得るため、県内 10 カ所（八重山、知念、泊魚市、中城浜、泡瀬、勝連、与那城、恩納村、石川、名護）の魚市場で漁獲物の種構成や、体長組成を調査した。調査は、知念漁協のみ月に 1 回、八重山漁協は週 2 回、それ以外は週 3 回の頻度で実施した。

(2) 資源管理策策定のための生物調査

漁獲体長制限等の資源管理策を検討するため、2020 年 4 月から 11 月にキツネダイの標本 73 個体（沖縄島周辺: $n=26$, 久米島: $n=47$ ）を収集し、年齢、成長、成熟、性転換等について調査した。

(3) 遊漁によるスジアラの採捕実態調査

令和 2 年度時点で、スジアラ・シロクラベラの漁獲体長制限に関する委員会指示が適用されていない沖縄本島西海岸の共同漁業権第 13~16 号の海域で、遊漁によるスジアラの採捕実態を把握するため、遊漁船業者からスジアラの採捕実態を聞き取ったほか、調査員が遊漁船に乗船して、スジアラの操業当たり採捕尾数および体長等を調査した。

結果及び考察

(1) 市場での漁獲物調査

2020 年度における各市場の延べ調査回数は、本島地区で 111 回、八重山地区で 89 回であった。

(2) 資源管理策策定のための生物調査

2020 年度の調査により得られたキツネダイの標本の体長（尾叉長）と年齢範囲は、317–585 mm, 2–16 歳であり、7 月に沖縄本島周辺で、6, 7, 10 月に久米島で得られた雌計 9 個体からは産卵直後の卵巣に見られる排卵後濾胞が観察され、本種は当該期間に産卵していることが推測された。なお、本調査の詳細については、Akita（投稿中）に整理している。

(3) 遊漁によるスジアラの採捕実態調査

遊漁船調査によって得られたスジアラは、91.3% (21/23 個体) が沖縄島周辺における 50% 成熟年齢（5 歳）および体長（43.3 cmFL）を上回っており、ほとんど未熟個体の水揚げはなかった。また、沖縄海区漁業調整委員会指示による漁獲制限体長 40 cm を下回っていた個体は 1 個体のみであった。聞き取り調査でも、採捕個体の平均的な重量は、1~3 kg との回答が得られており、小型個体の採捕はまれであるという回答が多かった（沖縄県水産海洋技術センター, 2021）。これらのことから、沖縄西海岸における遊漁船案内によって採捕されるスジアラのほとんどは、委員会指示による制限体長を上回っていると考えられ、未熟個体の採捕は少ないと考えられた。

文 献

Akita Y. Habitat water temperature influences the Pacific longnose parrotfish *Hippocampus longiceps* regional life history characteristics （投稿中）

沖縄県水産海洋技術センター, 2021: 令和 2 年度沖縄本島西海岸地域における遊漁による資源利用実態調査委託業務, (株)水圏科学コンサルタント・(株)沖縄環境科学研究所 共同企業体. 160pp.

*E-mail : akitaych@pref.okinawa.lg.jp 本所（現所属：沖縄県水産海洋技術センター普及班）